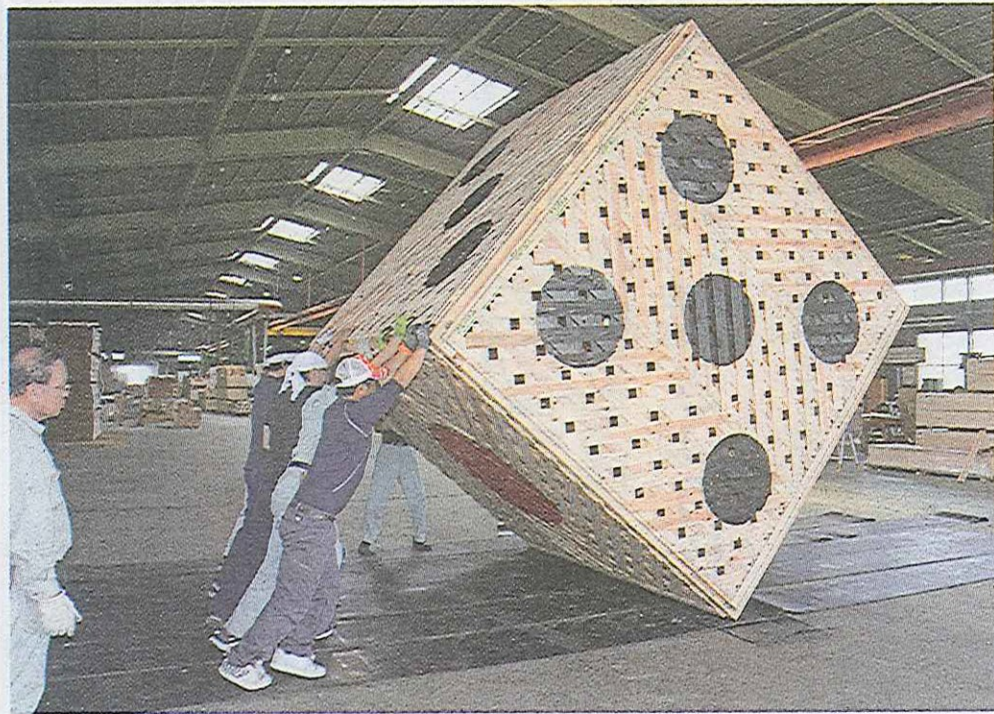


(1)

(昭和21年3月1日第3種郵便物認可)



一辺2・7mの巨大な「サイコロ」を転がした(能代市河戸川の相澤銘木で)

能代市の相澤銘木が製作

「アミパネル」の立方体

杉板格子状 3層に組み 転がして強度を実証

構造用集成材を製造する能代市河戸川の相澤銘木(網幸社長)は、杉板を格子状に3層に組んだ「アミパネル」を使い、簡易住宅に見立てた巨大な立方体を製作した。強度をアピールするため26日、立方体にサイコロの目を入れて転がすユニークな実演を行ったところ、転倒の衝撃や振動にもびくともしないことを実証した。パネルは柱面に施工することで地震や湿気に強い家の着工が可

能になる新建材で、22年に県立大木材高度加工研究所と共同開発し製品化。実演は高性能なアミパネルの認知不足を解消し普及させる狙いがあり、製作工程や転がした様子は来月ネットで動画配信する。

アミパネルはスギ板を斜めと縦に3層に積層した耐力面材で、住宅の強度を高めるため柱と柱の間に据える筋交いや壁に張る構造用合板に代わる。板が網の目のように

合わさつていことからアミパネルと名付けた。強度と剛性があり、地震などに耐えられる耐力壁としても利用できるのが特長。手を掛けて持ちやすく、風にあおられるにくい。狭い場所の施工に向いている。通気層のため湿気や雨水を格子のすき間から逃し、結露を防ぐ効果もある。格子のすき間を配線に使うこともできる。

間伐材を有効利用しようとする県の補助事業で木高

研と共同開発した。長さ270センチ、200センチ、幅90センチ、厚さ2・7センチの2種類あり、23年に国土交通大臣認定を受けた。「アミパネル」の名称で商標登録している。性能の高さと施工のしやすさから大手住宅メーカーも採用し、県内の個人宅15棟で施工された。市内では市営松山町住宅(未広町)の壁と屋根に使われている。

サイコロハウスはアミパネルを愛用する秋田

市の工務店「ココハウス」(小松兼社長)の協力を得て製作。長さ2・7mのパネル18枚を正6面体のサイコロ型に組み立て、四畳半一間の住宅に見立てた。赤と黒のペンキで賽の目も入れ遊び心たっぷりの実演となった。

社員ら10人がかりで巨大なサイコロを一斉に押し倒すと、工場内に「バチーン」と大きな音が響いた。強い衝撃を与えても影響ないことを確認すると「拍手とよもいすい強さだ」と感嘆の声が上がった。計3回繰り返しても同じ結果となり、斜め45度に積層することで強度を通常の4倍まで高めた新パネルの性能が改めて証明された。

網社長は「予想以上に頑丈だった。木材業界が厳しい状況ではインパクトのある取り組みが必要。高温湿潤な地方の住宅に向いており、アジアへの輸出も検討したい」と話した。

実演の様子はビデオ撮影し、動画投稿サイト「YouTube」で6月上旬に公開する。網智規専務は「実験の動画や写真を見てもらうことで、施工が興味を示している耐震性を実感してもらえれば」と期待した。